

平成28年度事業の実績

I 大学改革の実施について

SJN21構想会議の検討結果を受け、経営強化・改善計画に看護学部及び人間学部の2学科体制への改組を盛り込んだ、修正経営強化・改善計画を策定し、改組に着手しました。

この計画を基に、第二期中期計画（平成29年度～31年度）を策定しました。

II 教育活動について

（大学）

- ①教育目標に沿った「七つの力」を学生が身につけることを重点に教養教育と専門性の教育を展開しています。
 - ②平成29年度入学者の入学生定員を80人とし、学生募集を行いました。
 - ③人間学部を平成30年度から1学部2学科体制とするため、新学科（文化学科）設置を文科省に事前相談を行った結果、学科設置届出が「可」となり、正式届出の準備に入りました。
- 2学科体制への移行に伴い、既存の心理コミュニケーション学科を3コースから2コース制への変更や各コース特徴を明確化にむけて、組織変更や教育課程変更の準備を行いました。
- 「定員の充足」「教育の質保証」「地域貢献の充実」を重点項目に据え、教育目標、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの明確化を図り、PDCAを通してその達成に努めました。
- （短大）
- ①カトリック校としてのアイデンティティの維持、浸透、ミッションスタールの持つ温かい雰囲気作りを行いました。学位授与式・入学式、静修会等の学校行事のあり方を見直し、内容の充実を図り、メッセージ「こころを育てる」が一層浸透するように対策を図りました。

短期大学のアドミッション・ポリシーに沿った入試制度の検討を行うとともに、次年度に導入する経済支援型奨学金入試のあり方を検討しました。

②幼児教育科：保育者養成教育の伝統を継承しつつ、人間性豊かで新しい時代にふさわしい保育者を養成するために、幼児教育、社会福祉、児童文化の3コースを設け、保育士資格、幼稚園教諭二種免許、児童厚生二級指導員及び自然

体験活動指導者などの資格取得に必要なカリキュラムを設置しています。入学前教育の重点化としての基礎学力、日本語力を確保する工夫（入学前講座、課題の充実）と通信添削講座の受講の促進、ピアノ技能の早期把握と対策の強化を引き続き検討し実施しました。

③国際コミュニケーション科：豊かな国際的視野とコミュニケーション能力を養成できるような学生の興味や進路に合わせて国際・ビジネスの2コースを設け、関連する資格・検定の取得も強力に支援するカリキュラムを設定しています。eポートフォリオ「SJCMナバ」運用は3年目となり、清泉版社会人基礎力である「清泉スピリット5つの力」の育成を主なねらいとする特別プログラムも引き続き継続しています。

III 自己評価・FD活動について

（大学）前年度行った大学基準協会による認証評価の指摘等に対応して、大学全般の課題に取り組みました。特に教育の内容と方法における質保証の構築のため、FD研修会、授業改善アンケートへの対応、7つの力評価等により前進させました。

（短大）短期大学基準協会による第三者評価の結果を活用し、改善を図りました。引き続き自己評価報告書の質の向上と整備を行いました。

IV 国際交流について

特定の文化に対する知識の学習、異文化交流に欠かせない行動力、コミュニケーションスキル、語学力などを育成する海外研修プログラムを作成する事ができました。それにより、多数の海外研修参加者がありました。

また、韓国漢陽女子大学より3名のセメスター留学生を受け入れました。

V 学生生活の支援について

学生の教育と学園生活が充実するよう、教職員が協力・連携して対応しました。

学生生活アンケートや、学生からの希望や意見を、対応が可能なものから改善に努めました。特にトイレ整備や校内施設等について集中的に改善しました。従来から運行していた、スクールバスとマイタクロバスの運用を継続し、学生の登下校の利便と安全を図りました。マイタクロバスの積極的な活用により学外授業の利便性は向上しています。

上しています。

天候等の状況により休講措置を取る場合の基準を明確にしました。オクレンジャー（学内メール連絡網システム）を積極的に活用して、学生の安全確認、各種の情報提供を実施しました。特にオクレンジャーの掲示板機能を利用して紙による学内掲示の代替としても有効に活用しました。

VI キャリア支援

就職活動期以前の早期進路相談、通常面談体制を整え、学生の状況に応じた支援を行いました。また、キャリア支援センター、キャリア担当教員およびゼミ担当教員が情報共有を図り連携した支援を行いました。

学生の就職希望、状況に応じた企業開拓、企業との情報交換等を通じて企業との関係構築と強化に努めました。また、キャリア系授業、業界職業研究セミナー、学内企業合同説明会等では企業側の協力を得て、学生の職業理解の場を多く設けることができました。

VII 教員の研究活動について

研究の質の向上と研究活動の全体的な活性化のため、研究成果出版助成、共同研究推進・発表会、海外及び国内の研究者との学術交流会などを行いました。共同研究においては、2件の地域課題解決型研究が始まりました。研究成果については、『研究紀要』『Humanitas Catholica』『教育文化研究所NEWS LETTER』等で公表しています。

VIII 保護者、地域との連携について

①保護者等との連携：「泉会（保護者会）総会」及び「就職・進学支援のための保護者懇談会」の開催、「カレッジ通信」を通じて、本学の様子をお知らせしています。卒業生については、新卒者同期会の開催、愛泉会（OG会）と協働で「ニュース・レター」の発行を行いました。

②地域との連携：地域連携センターを中心に地域や自治体との連携を積極的に進めるとともに、学部・学科がそれぞれの教育内容の特徴を生かして「地域に貢献できる人材育成」を目標に活動しました。

・長野市、千曲市及び信濃町との連携協定に基づき、コースの特徴を生かし地域活動を通じた

サービスラーニング型教育や、PBL型教育を導入した活動を行いました。

・本学教員を講師に、公開講座、授業開放講座、出張講座を開催しました。シニア層や女性の活躍、インバウンドなどの地域課題解決の支えとなるテーマへの変更や、広報地域の拡大により受講生が増加しました。

・長野県の地（知）の拠点整備事業として、大学・地域連携事業補助金に2件が採択され、事業を行いました。

IX 学生の募集・受け入れについて

本学の取り巻く環境を分析し、大学案内・募集要項の制作、オープンキャンパスの実施、保護者説明会の実施、高校訪問、ガイダンス参加、大学見学会、出張講座、姉妹校連絡協議会、高校連絡会、地域連携センターとの連携、Web、SNS、テレビCM、ラジオCM、新聞広告等により本学の魅力を伝え募集活動を実施しました。高校内ガイダンス、会場ガイダンスは従来以上に積極的に行いました。

オープンキャンパスで高校生・保護者の対応にあたる学生スタッフへの、応対マナーや説明力向上等の研修を充実させ、学生スタッフが中心になった運営をめざしました。その結果、高校生、保護者に、本学の学生の素晴らしさに触れてもらいオープンキャンパスで好印象を与えることができました。

X 施設設備の維持・充実について

施設の安全性の確保、アメニティの充実を基本に次の改修、設置等を行いました。

・P館、J館、C館のトイレの改修

・マリアンホール、J館講義室、美術室、図書館書庫他の照明をLED器具に交換

・正面周辺の環境整備として、樹木の移植、音楽堂前の造園、中庭の芝張替

・S館とF館の渡り廊下の改修

XI 財政

中期財務計画に沿って、財務管理を行っています。国庫及び地方自治体の補助金で一三五百万円を獲得しました。支出については、予算執行状況をタイムリーに把握できる体制の整備を行い、予算策定の高度化や経費削減を図りました。